



第23回「ツール・ド・のと400」能登半島一周サイバル・サイクル2011（同実行委、石川県白根車競技連盟、北國新聞社主催）は2日目の18日、輪島市マリンタウンから七尾市能登島マリンパーク海族公園までのコースで行われた。758人は能登各地で営まれた秋祭りのにぎわいの中や景勝地を駆け抜け、豊かな自然や風土を体感した。

全3日間の走破を目指すチャンピオンコースに567人、1日コースに191人が出場

ツール・ド・のと2日目

祭りの能登路快走

住民、若衆から声援

した。厳しい残暑の中、若衆から、温かい声援。出場者は外浦、内浦の が送られた。海岸線や山間部の峠道。最終日の19日は、七尾市から氷見市、宝達166・8のコー志水町、かほく市、津スを進んだ。能登各地 幡町を経て内灘町ので秋祭り最盛期を迎え、インフォモール内灘までたこともあり、コースの121・7で行われた。沿道では住民や祭りの れる。

痛みに耐えゴール

今大会出場者で最年少となる7歳の勘田泰成君（金沢市中央2年）は、到着制限時間まで残り4分に迫った午後5時56分に能登島のゴールに父や兄とともに到着した。1日目は祖父の修吾さん（70）とも銀輪を連ねた泰成君が、2日目は午前中から尻にできた水膨れの痛みに苦しんだ。自転車のトラブルにも見舞われ、大幅に時間をロスした。

敬司君（1）も励まし、チェックポイントでの出走制限時間を間髪で通過、ゴールにたどり着いた。

ゴールで出迎えた母政美さん（44）は「2時はだめかと思っただ」と一安心。泰成君は「3日目も大丈夫」と元気に話した。

弱気になりそうな泰成君を、父泰宏さん（41）が「お前は人丈夫だ」と声を掛けてリッ



父や兄の激励を受け懸命にペダルをこぐ勘田泰成君（前列右）＝能登町九里川尻

今大会の出場最年長となった81歳の松島忠弘さん（奈良市）は、途中で左靴が壊れ、2日目は能登町内の114地点で走行を断念

最年長81歳 左靴壊れる

断念したのは3回目だが、「こんなトラブル100〜200を走破するといふ松島さん かり走ります」と、日は、ツール・ド・のとに焼けた顔で力強く誓った。

能登島の味と 足湯で癒やし

ゴール地点では、能目を終えた出場者登島の女性ボランティアは、近くの「ひよっこアグリズ」すめれ会「温泉島の湯」の湯をのメンバーが作った大 引いた足湯につかり、七尾湾を眺めながら疲れを癒やした。



↑ 足湯につかって疲れを癒やす出場者。七尾市能登島マリンパーク海族公園

陸自金沢駐屯地 自転車回収に奔走